

## 論文審査の要旨

報告番号	甲・㊦ 第 2963 号	氏名	片山 恵子
論文審査担当者	主査 小風 暁 教授 副査 中舘 俊夫 教授 副査 北見 由季 准教授		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>掌蹠膿疱症は 40 代以降に好発し、手掌足底に無菌性膿疱の多発を認める原因不明の難治性の炎症性疾患で、誘因として病巣感染、喫煙、金属アレルギー等が挙げられている。本症における金属アレルギーを検討する目的で、22 年間のパッチテスト結果を検討した。1990 年より 2012 年までに歯科金属シリーズのパッチテストを施行した 1025 名（男 210 名、女 815 名、平均年齢 40.1 歳）を対象に、掌蹠膿疱症群（148 名：男 42 名、女 106 名、平均年齢 47.0 歳）と他疾患群（877 名：男 168 名、女 709 名、平均年齢 38.9 歳）で陽性率の比較を行った。パッチテストは背部健常皮膚に貼付、2 日後に除去、判定は 3 日後に ICDRG (International Contact Dermatitis Research Group) 基準で + 以上を陽性とした。掌蹠膿疱症群／他疾患群で各金属の陽性率を <math>\chi^2</math> 検定で比較検討すると、白金に対する陽性率は 6.8% (148 名中 10 名) で、他疾患群の 2.6% (877 名中 23 名) に比して有意に高く (<math>p &lt; 0.05</math>)、白金に対するアレルギー反応が本性に重要な役割を担っている可能性が高いと考えられた。</p> <p>本論文は本邦における掌蹠膿疱症における金属感作について、重要な新知見を有し、学術上価値が認められ、学位論文に値すると判断した。</p> <p>論文題名： 掌蹠膿疱症における金属感作に関する検討</p> <p>掲載雑誌名： 昭和学士会雑誌 第 76 巻 第 4 号 平成 28 年 8 月</p>			

(主査が記載、500 字以内)